

1 六地藏・黄金の水



小金井市本町 1-7

六地藏は1696年(元禄9)に完成した玉川上水からの分水路「小金井村分水」の流路に記られている地蔵尊で、1707年(宝永4)に建立されました。その敷地内には深さ100mから揚水する井戸があります。500円の登録料を払えば好きなだけ水が汲めます。小金井市内には至るところに湧水がありました。「黄金(小金)に値する豊かな水が湧く」そのさまが転じて小金井という地名になったといわれているそうです。今でも小金井市の飲料水の70%は地下水で賄われています。

2 滄浪泉園



小金井市貫井南町 3-2-28 入園料:100円
9:00~17:00(入場16:30まで、火曜日休園)

明治・大正時代に三井銀行(当時)の役員や外交官などを歴任した実業家の波多野承五郎が、はげの地形と湧水を取り入れてつくった別荘の跡地です。庭園はかつて3万3000㎡あったといわれています。宅地化により当初の3分の1の面積になりましたが、それでも1万2000㎡が残されていて、貴重な緑地となっています。かつて高層マンションの建設計画が持ち上がりましたが、「湧水のある豊かな環境を守るべきだ」という多くの市民の願いにより、1977年(昭和52)に都が買い上げて緑地保全地区に指定。現在は小金井市が管理しています。

3 花と緑の小径



小金井市貫井南町 2丁目付近

滄浪泉園から立川段丘面を降りて野川に向かう途中に、人がすれ違えるかどうかの細い道に入ります。その道に沿って流れる湧水は、最初は下水道に流されていました。それを知った市民たちが「もったいない。少しでも野川に還元してほしい」と行政に働きかけ、野川に注ぐせせらぎのある湧水路「花と緑の小径」として整備されました。流れに手を浸すと、思いがけない冷たさで、はげからの湧水が地下水であることを実感します。

4 野川河畔



小金井市前原町 3丁目付近

昔の野川は、水量こそ豊かでしたが水は汚く、それこそぶ川のような状態。下水道の整備が進むと今度は水量が乏しくなり、洪水対策で川幅を広げ川底を深く掘り下げたため、水がほとんどなくなってしまいました。その後行政に働きかけて、瀬切れ対策の工事が下流から上流まで行われた結果、現在の野川に生まれ変わりました。水辺で遊ぶ親子の姿も見られ、東京都内とは思えない、実のり豊かな風景です。

野川フィールドワークガイド①

若林高子さん(環境省環境カウンセラー)、堀井光夫さん(エコロジカル野川の会 副代表)の解説のもとにミンカン水の文化センターが作成

5 旧野川河道



小金井市前原町 3丁目付近

現在の野川は前原小学校のグラウンドの下を通るため、川面は見えなくなりますが、小学校の南側に、改修前の野川の流路が遊歩道として残されました。ゆるやかに湾曲している壁面が川筋の痕跡をどめているのうに見え、野川が氾濫しそうになったときに水を逃がす遊水池としての役割も果たします。前原小学校の子どもたちは、野川のことをどれくらい知っているかを試す「野川検定」に取り組む、その設問と結果が遊歩道に設置された掲示板に張り出されます。

6 小金井神社・石臼塚



小金井市中町 4-7-2

1205年(元久2)に天満宮という名で創建された「小金井神社」。1583年(天正11)に現在地に移されました。参道入り口の狛犬は幕末維新の侠客、小金井小次郎が奉納したものだそうです。その敷地内に、大小さまざまな石臼を積み重ねて築かれた碑があります。小金井市の農地は麦や陸稲、桑畑がほとんどで、水田は野川沿いに少しあるだけでした。1970年(昭和45)、野川の改修工事のため、わずかな水田もなくなりました。その3年後、穀物をひいていた石臼を持ち寄り、これまでの感謝の意をかたちづくらうと築いたのがこの「石臼塚」です。

7 はげの小路



小金井市中町 1-5

「はげの小路」は、はげの緑地に建つ「中村研一記念 小金井市立はげの森美術館」からの湧水を野川へと導く水路です。「はげの小路」も「花と緑の小径」と同様に、市民の運動によって整備されたもの。市民の声が後世に残した財産といえるでしょう。

8 くじら山下原っぱ



武蔵野公園内
府中市多摩町 2-24-1 (武蔵野公園サービスセンター)

くじら山下原っぱは、1986年(昭和61)に第三調整池とする計画が発表されました。このときも市民は「これ以上自然を壊すのはやめてほしい」と反対の声をあげます。市民有志で原っぱを守る要望書を提出し、東京都と9年ほど交渉しました。その結果、第三調整池にはせず、手つかずの原っぱとして残されることになったのです。くじら山下原っぱのすばらしい点は、「ベンチがないこと」と「平坦ではなくデコボコしていること」。ベンチがないので草地の上に座ること、そして平坦ではない地形で走ったり転んだりすることによって、大地そのものを感じるためです。

9 武蔵野公園



武蔵野公園内
府中市多摩町 2-24-1 (武蔵野公園サービスセンター)

都立武蔵野公園では都内の公園や街路に植える樹木が育てられていて、1,000本ほどの桜があるため「隠れた花見の名所」です。また、公園全体が浸透構造になっている「見えない貯水池」でもあります。浸透枳と浸透管を地下に備え、激しい雨が降ったときに野川へ一気に流れ込まないようにゆっくりと土壌にしみ込むようになっている、それでも間に合わない場合は、森全体が池のように水を溜めるようにできているのです。

10 野川第一・第二調整池



武蔵野公園内
府中市多摩町 2-24-1 (武蔵野公園サービスセンター)

左岸の downstream 側にある第一調整池は、洪水対策として1983年(昭和58)に完成しました。野川もかつては「暴れ川」と呼ばれていて、下流域に住む人たちが洪水対策を望む声が高まり、第一調整池がつくられたのです。野川から水があふれることに備えて、ここだけはコンクリート造りの越流堤になっています。1990年(平成2)、隣り合わせで第二調整池が完成します。ところが、画期的ともいえる出来事がありました。川べりはいったんコンクリート護岸となったものの、市民の声を聞いた東京都建設局が完成直前にコンクリートをはがし、緑地に戻したのです。

11 合流式下水道の吐口



小金井市東町 5丁目付近

西武多摩川線の線路をくぐる手前に、鉄格子のはまった吐口があります。すぐそばを合流式下水道が流れているのですが、雨が20mmほど降ると本管からオーバーフローして排泄物も含めて生活雑排水、いわゆる(生)の水が流れます。水質悪化の原因です。暮らしから出る雑排水は汚水処理場で浄化されますが、大雨のときはそのままの状態です。野川に流れ込んでいるのです。炊事、洗濯、入浴などで私たちは大量の水を消費していますが、その水のゆくえに思いを馳せることがどれほどあるでしょうか。

12 野川公園自然観察園



野川公園内
調布市水 2-2 (自然観察センター)

西武多摩川線の下流は「都立野川公園」です。左岸には国際基督教大学のはげがつづき、湧水も点在しています。ここは、戦時中は軍需用地、戦後は牧場から国際基督教大学のゴルフ場になりましたが、東京都が買収して1980年(昭和55)に公共公園として開園しました。はげ沿いの緑地帯はフェンスで区切られ、「野川公園自然観察園」というサンクチュアリになっています。このなかにゲンジボタルが飛ぶ「はたるの里」があります。

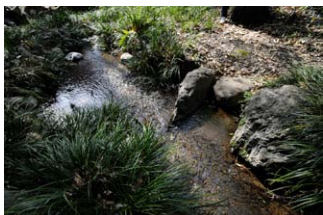
13 野川公園わさみず広場



野川公園内
調布市野水2-2 (自然観察センター)

開園まもなく野川公園側から「地域のひととともに公園づくりをしたい」という呼びかけがあったそうです。有志が集まり、1年間の準備期間を経て1986年(昭和61)、「野川ほたる村」という市民団体を結成しました。「ホタルが舞うような自然環境を呼び戻そう」と、ゲンジボタルの幼虫や幼虫のエサとなるカワニナなどの巻貝を育てる里親を募集し、湧水確保のための活動も行ないました。その湧水の1つが「野川公園わさみず広場」。都会では珍しい生き物に出会えます。

14 出山下の湧泉



野川公園内
調布市野水2-2 (自然観察センター)

富士見大橋のたもと、うっそうとした木立の奥にある「出山下の湧泉」。こんこんと水が湧き出ています。水量がたっぷりあるため、ここからポンプアップして200mほど上流に助水(補水)しています。出山下の湧泉はあまり知られていない秘密のスポット。

15 湿生花園



三鷹市大沢2-17 (大沢の里自然観察路内)

相曽浦橋の下流は、野川とはけの樹林を軸に水田や畑が広がる「大沢の里」。農村の雰囲気を色濃く残すこの水辺空間は、代々大沢村名主の分家である箕輪家と市民団体、行政、市民ボランティアが一体となってつくりあげたものです。左岸の入口にあるのが「湿生花園」。ホタルを育てるための水路と植生を保護するために柵と木道が張りめぐらされています。

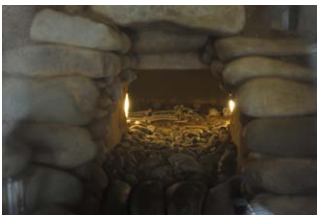
16 わさび田



三鷹市大沢2-17 (大沢の里自然観察路内)

「湿生花園」の先に進むと、はけの際に「箕輪家のわさび田」があります。この近辺は「ワサビは大沢にかぎる」と江戸っ子が言ったほどの特産地だったそうですが、現在栽培しているのはここだけになりました。

17 出山横穴墓群第8号墓



三鷹市大沢2-1097-1 (大沢の里自然観察路内)
9:30~16:00 (水、12/28~1/4は休館) 無料

「わさび田」の西側からはじまる細い散策路を登っていくと、「出山横穴墓群第8号墓」が現れます。この横穴墓は7世紀頃のもの。1993年(平成5)に調査されたときに入り口部の石積み構造が目目され、翌年に東京都の史跡に指定されました。直上の台地には出山遺跡があります。人が野川の周辺で連続と暮らしたことが、ここからもうかがえます。

18 峯岸水車(新車)



三鷹市大沢6-10-15
10:00~16:00 (水、12/28~1/4は休館) 100円

武蔵野地域には新田開発に伴って数多くの水車がつくられました。昭和時代になると急激に姿を消していきました。しかし、峯岸家は5代にわたり水車経営を行なってきました。200mほど上流にあった箕輪家の大車(おおぐるま)に対して、新車(しんぐるま)と呼ばれていた峯岸家の水車は1808年(文化5)ごろにつくられたもの。改良を重ねながら160年ものあいだ稼働していました。大型で多くの機能をもつことから東京都の有形民俗文化財に指定され、2009年には「旧峯岸水車場」の名称で、日本機械学会から機械遺産に認定されました。

19 沢の台ほたる池



三鷹市大沢2-18

国立天文台の敷地近くの国分寺崖線は、自然環境の保全を目的に市民が自然と親しみ、大切さを認識するエリアとして整備され、いくつかの湧水ポイントがあります。ここはその中のひとつ「沢の台ほたる池」。きれいな水田や池に生息するヘイケボタルが自生しています。

20 野川大沢調整池



三鷹市大沢6-13
(大沢野川グラウンドテニスコート)

手前にテニスコート、奥はサッカー場になっている敷地は、2000年(平成12)年竣工の「野川大沢調整池」。野川が越流しないときはスポーツ施設にするという前提でつくられました。大沢調整池ができたおかげで、くじら山下原っぱが残されることになったと言われています。何度も野川からオーバーフローしていますが、これまでは手前のテニスコートまでの越流で済んでいます。

